

数学	課題分析 (学力調査結果、定期考査、授業の実態等)	授業改善策	新学習指導要領に向けて	評価(◎○△)
1年	<p>【割合、道のりの計算】 ○何割引きや、速さの計算の考え方について振り返る機会を設ける。 【基礎計算力】 ○正負の数や、文字式の四則計算をミスなくできるようにする。 【思考力】 ○工夫して問題を解く力を向上させる。</p>	<p>【振り返りの時間の確保】 ○小学校の学習から関連する単元に入るときは、必ず内容を振り返る時間を確保する。 【計算方法の確認の徹底】 ○途中式を書くことを徹底し、計算過程での考え方を数式として表せるようにする。また、途中式を書くことで、どの段階で間違いがあったかを目視で確認できるようにする。 【言語活動の充実】 ○問題演習のときに、教え合いをさせることで考え方を共有、発見する機会をつくる。また、問題解説のときに解き方をいくつか提示する。</p>	<p>【実生活に即した学習】 ○各単元で実生活に即した学習をする。実生活で起こりうる事例を取り上げることで、興味、関心を引き出す。 【対話的な授業】 ○講義形式のみの授業ではなく、生徒同士の対話を重視する授業を行う。 【知識の定着】 ○実生活や他の単元、教科に関連させ、知識の定着を図る。</p>	
2年	<p>【都の「学力向上を図るための調査」結果より】 『思考・判断・表現』39.9%(都平均29.9%) 『技能』73.8%(都平均59.7%) 『知識・理解』69.0%(都平均63.6%) ○いずれの観点も、都の平均を上回る結果となった。特に『技能』においては、毎時間行う小テストや家庭学習の課題プリントなどの問題演習に多く取り組ませていることが結果に繋がっていると考える。 【授業の実態】 ○質問紙調査でも、数学の授業が「よく分かる」「どちらかといえば分かる」と答えた生徒が合わせて94%おり、数学の授業に対し肯定的に考えている生徒がほとんどである。小中一貫教育研究で「絵や図を用いて視覚的に捉えさせる指導」を課題改善カリキュラムのテーマとして作成し、算数・数学で取り組んでいること、また、習熟度別授業の効果が結果に繋がっていると考える。</p>	<p>【問題解決の見通しをもたせる】 ○生徒の「どうして?」「やってみよう!」という知的好奇心を喚起させ、学習意欲を高める問題を提示する。 ○生徒が課題の解決結果や解決方法の見通しをもてる時間を確保する。 【考えを広げたり、深めたりする話し合いの時間を充実させる】 ○多様な考え方に触れ、自分の考えと比較できるように、生徒の考えを意図的に取り上げる。 ○生徒の考え方の共通点や相違点、話し合いの展開などが明確になるよう、数学的な表現を用いながら板書する。 ○話し合いを焦点化する発問をする。 【学習内容の確実な定着を図る時間の充実させる】 ○単元の流れや学習内容を踏まえ、定着の時間を適切に位置づける。 ○毎時間、計算技能の習熟を図る練習問題だけを出题するのではなく、計算の手順や解を導く考え方など、本時の目標や学習内容を踏まえた練習問題を工夫する。 ○学習内容の定着状況を確認し、定着が十分でない場合には、再度問題に取り組ませたり、説明を加えたりする。</p>	<p>【主体的な学び】 ○問題を考えることの必然性を与え、目的意識をもって主体的に問題の解決に取り組むことができるようにする。 【対話的な学び】 ○対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面を授業の中に設定する。 【深い学び】 ○質の高い内容知や汎用性の高い方法知を身に付けさせるため、生徒が考える場面と教師が教える場面の授業の組み立てを図る。 ○振り返る内容を明らかにして授業をつくる。</p>	
3年	<p>【『全国学力・学習状況調査』の結果より】 数学的な技能72.2%(全国63.9%) 数学的な見方・考え方51.4%(全国51.0%) 数量や図形などの知識・理解73.2%(全国71.3%) ○評価の観点はいずれも全国平均を上回る結果となり、特に『技能』は毎時間の小テストの成果が表れているといえる。 【授業の実態】 ○三展開の習熟度別授業できめ細やかな指導が行えている。主体的な学びを促すためにも、教材や授業展開の工夫を続けていく。</p>	<p>【言語活動の充実】 ○生徒が自分の考えを伝え、それにより学びが広がっていくような展開を工夫する。 ○二人組、四人組などのグループ学習の他、一対一で説明し合う展開を工夫する。 【生徒にとって身近な課題設定】 ○日常生活の場面から課題を探し、生徒自身が取り組みやすい出題の仕方を工夫する。 ○生徒の「なぜ?」「どうして?」という知的好奇心を刺激する課題の設定を工夫する。</p>	<p>【主体的な学び】 ○目的意識をもって主体的に問題の解決に取り組むことができるように課題設定などを工夫する。 【対話的な学び】 ○対話によって自分の考えを広げたり深めたりする場面を授業の中に設定する。 【深い学び】 ○質の高い内容知や汎用性の高い方法知を身に付けさせるため、生徒が考えて自身の思考を深めていくような展開を工夫する。</p>	